

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673100113
法人名	医療法人 木村外科内科
事業所名	グループホームきむら
所在地	鹿児島県鹿児島市石谷町2105番地3 (電話) 099-278-0058
自己評価作成日	令和4年10月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は鹿児島市郊外の高台にあり母体が医療法人の敷地内に併設されている。利用者の身体的レベルの低下もあり、日常生活に時間がかかるようになってきているが本人のペースでのんびり生活できるように支援している。毎日レクリエーション活動の時間をとり、体を動かしたり、歌を歌ったり、脳活性トレーニング等に取り組むなどしながら楽しく過ごせる時間をつくるようにしている。上記にあるように、母体が医療法人であることで24時間緊急対応ができ、個別の医療ニーズや急変時対応もでき本人、家族の安心になっている。利用者の状態把握を行い、出来る限り本人の残存能力を活かせるように支援している。コロナ禍により家族との交流が減ってきたが、ガラス越し面会や携帯が使える利用者は家族と携帯にて会話を楽しむなどし繋がりが途切れないようにしている。地域との交流は例年参加していた地域行事に参加することは難しいが、利用者の作品展示などで地域との繋がりを継続できるようにしている。利用者は季節に応じた事業所内の行事に参加することで今現在を感じていただけるように支援を行っている。職場環境においては、研修の充実、働きがいのある職場づくりに務めている。

当ホームは、幹線道路沿いにあり、法人の医療機関にも隣接しており医療連携や災害時のバックアップ体制があり日常的に関係性が強い。利用者や家族は入居時、法人医療機関をかかりつけに希望され緊急時や重度化した時などの迅速な対応に期待されている。24時間オンコール体制が構築され、医療ニーズの高い利用者についても安心して暮らしていただけるよう取り組んでいる。

事業所は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための体制を取っているが、天候をみながら庭を散歩したり、お茶を楽しむなどして季節を感じている。面会は、玄関内で実施し交流の場が減少しているため利用者・家族の意向を踏まえなるべく希望に沿うよう取り組んでいる。

食事については、炊飯やみそ汁(朝)の料理以外は法人の厨房から配食を受けているが、食への関心や興味が減少することがないよう利用者の嗜好や希望などを聞き取り献立に活かし、行事食などを楽しんでいる。

年2回、消防訓練を実施しているほか、不定期にて自主訓練をおこない意識向上を図っている。地域のシェルター機能も果たし、運営推進会議にて話し合っている。現在、避難訓練は単独で実施しているが、地域との連携も進め備蓄などは、法人で一括管理され、自家発電にて停電対策をしている。

理念は、6～7年前に見直しており、玄関や共有スペースなどに掲示されミーティングで話し合われ意思統一を図るよう努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を理解し利用者支援に実践できるようにしている。基本理念については、事業所内（玄関、和室、トイレ等）に掲示し意識付けを行っている。	理念は、玄関や和室などの共有スペースに掲示し、パンフレットに掲載されている。職員は、毎月ミーティングで理念に触れる機会がありケアを振り返るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との交流は行えていない。コロナ禍以前は地域の老人会等に利用者、職員が参加し、地域の人々と交流することに務めていた。	地域の敬老会に参加するなど以前は交流があったが、コロナ感染症拡大予防のため法人の方針もあって地域交流は自粛している。年1回、地域の清掃活動に協力したり、認知症サポーター養成研修講座の講師依頼を受けるなど社会貢献し協力活動を実践している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症サポーター講座の講師として地域の方に認知症についての啓発活動も実施している。また家族からの相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議の開催は控えている。社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治体の長へ事業所の事業報告、活動報告等の連絡事項を行っている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に書面にて利用者情報や事業所の取り組み状況、施設行事などを地域包括支援センターに報告し、情報共有や意見交換をおこないサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により介護相談員等への直接の連携については控えている。入居者の生活支援状況についての報告、相談等は必要に応じて電話により対応している。	成年後見制度利用の方や福祉事務所担当職員との連携があり、介護相談員は年1回訪問があり、利用者の処遇改善に活かしている。市担当者とは事業所運営や制度上の悩みなどを相談したり指導や助言を頂戴するなどして相互に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による指針を作成し、各ユニットに掲示している。身体拘束に関する研修を行い、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関は施錠していない。	身体拘束等適正化を図るための指針があり、毎月ミーティングにて職員全員で話し合っている。敷地内を散歩される方については、職員の連携や法人職員の協力関係があり安全に外出ができるよう連携を図っている。職員は、スピーチロックやフィジカルロック等への意識が高く、定期的に研修を実施し自己研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修にて、虐待防止について学ぶとともに、日々のケアの中で虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が生活している。権利擁護に関する制度については研修等にて学ぶ機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必要書類について十分に説明を行い、家族からの質問にも丁寧な答えながら信頼関係の構築に努めている。改定時は電話等で説明を行い、郵送にて書面での取り交わしを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は電話により近況報告等を行う際に、要望等の聞き取りを行い運営に反映させている。	家族によっては面会がままならない事情のある方もあるため、利用者の暮らしぶりなどのついては、電話で報告している。毎月、ホーム便りに写真などを添付して送付している。また、新規スタッフの紹介などもお便りで紹介し情報を共有し、意見や要望を聞き取るよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期的な開催、日々の申し送り時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。必要なことは理事に相談し運営に反映させている。	管理者はミーティング時に職員の意見、要望を聞く機会を設けている。法人は、職員が働きやすい環境に配慮し、休憩時間については業務遂行がしやすいよう時間配分して就労環境を整備している。職員は資格取得を目指し、研修にて自己研鑽するなどしているが、法人のバックアップ体制がありサービスの質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活環境における聞き取りを行い、勤務の調整など就労環境の整備に務めている。職員の資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は定期的に実施している。外部研修、資格取得研修等研修費用は法人が負担している。コロナ禍にて外部研修はZoom研修等にも参加しトレーニングできる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者とのZoom会議、Zoom連絡会にて交流しサービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、本人の困りごと、不安なこと、要望に関して声かけを行い本人の話を傾聴し、本人が安心して生活できる関係づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前のアセスメント時に家族の困りごと、不安なこと、要望等に耳を傾け、家族が安心できる関係がつけられるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が「その時」に必要なとしている支援が何かを見極め、必要な支援ができるように多職種との連携が図れるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事（お正月、あくまき作り、焼き芋、野菜の作り方等）は、利用者本人と職員が教えあいながら取り組んでいる。利用者の個性や能力に合わせた役割分担を行い、できることをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にて本人の生活状況を報告している。家族の思いを聞き取り共に本人を支えていける関係づくりに務めている。毎月ホーム便りを家族に届けることで本人、家族が繋がるように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり馴染みの場所への外出は難しいが、家族とのガラス越し面会や携帯電話での会話等行うことで関係継続の支援は行えている。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため面会を制限していることや外出も以前ほどではないが実施しており、電話や窓越し面会を通じて馴染みの関係が継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者同士で会話を楽しめたりと関わりは持てている。利用者同士の関係を把握し必要時に職員が声かけを行うなどし支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に入院先等へ面会や訪問をしていたが、コロナ禍になり面会も訪問も難しくなった。現在は必要に応じて電話での連絡等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、職員間で把握し対応できるように務めている。聞き取りが困難な利用者に対しては家族に聞き取るなどし対応している。	年齢に関係なく意欲的に取り組んでおられる方の思いや意思表出が厳しい方の思いは日々の暮らしの中で感じ取り、職員全員で共有し好きなこと、したいことなどの実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の話から聞き取りを行い、またこれまで関係のあった職種等からも情報収集を行いこれまでの暮らしについての情報の把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて、一人ひとりの生活の現状把握に努めている。申し送り等を行い、職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き取り、ミーティング時等に職員間での話し合いを行う。本人のモニタリングを行うことで現状に即した介護計画を作成している。	本人の楽しみや役割を意識し、カンファレンスや担当者会議などで話し合いながら、目標達成に向けて取り組んでいる。家族には、面談や電話などで計画書を説明、同意をいただき現状に即した介護計画書を作成している。6ヶ月毎のモニタリング、柔軟な見直しをおこないチームケアにて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者本人の日々の様子やケアの実践等については個別記録を記入し、職員間で情報共有を行いケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時のニーズに対して、同行受診介助や買い物支援など柔軟にサービス提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染対策のため地域との協働は行えなかったが、地域の祭りへの展示品を作る等楽しみが持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であることで定期的に主治医の診察を受けることができている。主治医への状態報告を行い指示を受け適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医である。入居時、ほとんどの方が法人医療機関を希望され、月2回、訪問診療を受けて適切な医療を受けている。他科受診は家族に依頼していたが、現在は職員が対応支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々のケアを行っている中で利用者に変化があった時は看護師に連絡、報告し主治医の指示を受け適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内入退院時は頻回に病院関係者と情報交換等行っている。他科入退院時は各病院の医療連携室等担当者と情報交換や相談を行うことで利用者が安心して治療や退院できるように関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては契約時に急変時対応について本人、家族等と話し合いを行い書面にて確認をとっている。利用者については日々状態変化があることからその時の状態を報告することで再度その時のあり方について確認をとり、関係者と共に支援に取り組んでいる。	契約時、重度化対応・終末期ケア対応指針があり、延命治療についても説明し同意を得ている。重度化した場合は、管理者が同席し家族とも情報を共有してケアの方向性について話し合っている。職員は、ホームでできることを丁寧に説明しながら方針を共有し、主治医と連携しながらチームケアにて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応については緊急時対応マニュアルに沿って対応し医療関係との連携体制も確立している。職員会議時に緊急時対応についても研修を行い学ぶ機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施し、通報設備等を使用し訓練を行っている。コロナ禍であることで地域との協力はできていない。非常災害マニュアルを作成しており、職員は職員会議で非常時の対応マニュアルの把握を行っている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症予防のため、消防署に報告し助言を頂戴するなどして事業所単独にて訓練を実施、地域避難場所でもある。災害用備蓄は法人にて一括管理、自主訓練では、災害食を提供したり停電対策を行うなど非常時を意識している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内にて接遇研修を行うなどし一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。	年1回、接遇マナーについての研修を実施、入室時の声かけや会話の際失礼のないよう丁寧に声かけすることを心がけている。また、排泄や入浴介助時は、羞恥心やプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせて本人の思いや希望が表出できるように支援している。利用者によっては思いや希望を自己決定ができない場合は表情など観察することで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりの体調やペースにあわせて過ごせるように、職員は見守りを行い声かけをすることで無理のない暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が自宅で着用していた物や好きな衣類を持参されている。毎日職員が利用者本人が身だしなみを整えおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が一人ひとりに合った食事の提供を行っている。職員は其中で利用者に合わせた食事形態や食器選びなどを行うことで利用者が食事を楽しめるように支援している。	法人管理栄養士の栄養管理があり、主食と毎朝の味噌汁以外は法人厨房から提供、食事形態を工夫し入居者に合わせた食器選びをするなどして、食事を楽んでもらっている。食事時は、感染対策を徹底し席次を工夫、誕生会などの行事食を提供し、季節感を味わい食事に関心を持てるよう取り組んでいる。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し本人の状態把握に努めている。水分摂取量は主治医の指示に合わせた水分摂取量が摂れるように職員が一人ひとりに声かけ促しをして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりへ口腔ケアの声かけを行い本人の口腔状態、本人状態に応じて職員が介助を行い清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状態を把握し排泄支援を行っている。トイレにて排泄ができる利用者は継続できるように支援を行っている。	排泄チェック表にてリズムを把握し、本人に合った声かけやジェスチャーを駆使してトイレなどに誘導し排泄の自立を図っている。夜間などは、ポータブルトイレの活用などで排泄の自立を図り気持ちよく過ごしていただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、個々の水分摂取量や食事摂取量など確認している。便秘予防のために日常生活で体を動かす機会をつくったり、乳製品を取り入れるなどし取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの身体状態に合わせて柔軟に入浴対応している。本人が入浴が楽しいと思えるような言葉かけを心がけて支援している。	基本的に週3回、午前中に入浴支援をおこなっているが、必要に応じてタイミングをみて入浴を勧めたり、同性介助や職員二人介助にて入浴介助をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を考慮し、またその時の体調を確認し状況に応じて休息、安眠できるように支援している。日中はできる範囲で活動を行い、夜間は安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医による服薬指示により処方された薬については、利用者各自の薬情書を確認し対応している。服薬介助は飲み込みまで確認を行っている。服薬変更時は職員間で確認を行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用当初のアセスメントで知り得た本人の生活習慣、趣味等により、一人ひとりに合わせた役割（計算問題、クロスワードパズル、洗濯物たたみ等）を行っていただくことで楽しみがあり気分転換ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年行う季節毎の外出行事（春は桜の花見、秋はコスモス見学等）はコロナ禍ではあるが感染対策を行い実施している。日常的には施設敷地内の散歩などすることで気分転換が図れるように支援している。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため外出は控えているが、天候や体調を見ながら、敷地内を散歩したり、庭でお茶などをするなどしている。また、春や秋の花見見物はドライブにて楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者については家族管理となっている。本人が所持している利用者に関してはコロナ禍もあり自身で買い物はされないが、頼まれる時は家族に連絡後スタッフが買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持たれている利用者に関しては都度家族と電話をすることができている。その他の利用者に関しては職員が電話ができるように支援している。手紙が書ける利用者に対しては文面作成の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁飾り等、共用の空間（多目的室）に行っている。玄関前は季節の花を定期的に植え替えるなどして季節感を感じられるように配慮している。気温に応じて居室、事業所全体の温度、湿度などの調整を行い居心地よく過ごせるようにしている。	正面玄関は各ユニットに分かれ、家族などの面会は玄関で実施している。共有スペースは、季節の飾り付けをされ、生花が活けられ生活感や季節感を取り入れている。ゆったりとしたリビングからは景色が楽しめ、ソファにてくつろぎながらテレビ鑑賞や団欒をおこなうなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居場所は要望を聞きできる範囲で対応している。利用者の関係性を考慮し、テーブルの席を配慮するなど一人ひとりが落ち着いて過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の使い慣れた物（自宅で使用していた家具等）や家族の写真や個人の作品などを置いて本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	ベッドやタンス、エアコンが備え付けてあり、本人の使い慣れた物を持ち込み、趣味や好みの物を置いて本人らしく落ち着きのある居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーで車椅子も自由に自走できる広さとなっている。自力歩行の利用者は手すりを利用し、職員は見守り、声かけをすることで転倒予防に務めている。居室やトイレの場所はプレートを作成し認識しやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない